

愛知学院大学歯学部同窓会

令和2年度 ポストグラデュエートコースのご案内

令和3年2月14日（日） 9:30 ～ 17:00

**演題 「歯科臨床45年の軌跡その2 歯を守る歯科医療」**

**—抜かず・削らず・歯の神経を守る歯科医療—**

**講師 齊藤 佳雄（愛知県開業）**

ここ数年来、「歯の破折」を主訴として来院される患者さんが増加している。その多くは、既に他院を受診され、『ヒビが入っているから抜くしかない』、『抜歯して、インプラントか Bridge になる』との診断を受けた後、

「抜かずに何とか治療する方法はありませんか？」との主訴で来院される方々である。

演者は1998年より破折歯根の接着・再植保存法に取り組み、破折した歯根を接着した後、再び口腔内に再植することで、十分に咀嚼に寄与している多くの臨床例を経験して来た。

今回は、それらの経験を基に、現在 主として取り組んでいる 非抜歯による破折歯 歯冠内接着保存法による様々な臨床例について、実際の症例を提示し、その具体的な術式についても詳述する。

歯を守る歯科医療の立場から云えば、破折歯を保存することで抜歯による両隣在歯を削る Bridge やインプラントを避けることが出来る。

何にも増して、元々あったご自身の歯で再び咀嚼出来るならば、患者さんにとってこれに勝る喜びはない。

私達は歯科医師として『歯を守る事が使命である』という事を常に忘れずに臨床に取り組みたいものだ。

患者さんは、抜く・削る・神経を取る歯科医療よりも、歯を守る歯科医療を選択して来院される。歯科医多難な時代を尊厳と誇りを持って生き残るために、私達は如何に歯科臨床に取り組むべきであろうか。

今回は、歯髓の保存法や矯正的歯根挺出法、40年以上の Endo の長期経過症例についても出来るだけ多くの臨床例を提示し、ご指導とご批判を仰ぎたいと思います。

## 講演内容

### I. 抜かず

1. 破折歯への対応 —破折歯を抜かずに保存するために—
  - 破折歯根の接着・再植保存法
  - 非抜歯による破折歯 歯冠内接着保存法
2. 歯根挺出法 —矯正的・外科的・自然挺出法—
3. 重症ペリオ症例への対応 —重症ペリオを抜かずに保存する—

### II. 削らず

1. 天然歯 pontic 応用で両隣在歯の削去を避ける
2. **Partial venier Bridge** で天然歯質の削去を避ける
3. 深いカリエスも最大限 健全歯質を保存する

### III. 歯の神経を守る

1. 抜髄治療は過去のものだ
2. 深いカリエスから歯髄を守る
3. 外傷破折露髄歯の歯髄の保存
4. 患者さんは神経を抜く歯科医師よりも  
神経を守る歯科医師を選ぶ

### IV. Endodontic の長期症例から

1. 根尖病巣を有する感染根管治療とその限界
2. いわゆる **Endo・perio** 合併症への対応
3. 根尖病巣は外科（抜歯）か **Endo**（保存）か 外科的 **Endo** か
4. これは **Endo** で治りますか

### V. 医療倫理を問う